

## 評価・標準化研究会の最近の活動

日時： 平成23年8月12日（火） 15:00-17:30

場所： 東京大学 生産技術研究所 An407 号室

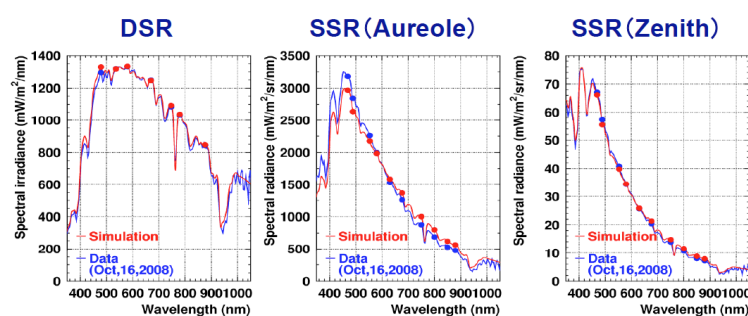
話題提供と議論：以下の2つの内容が話題提供され、活発に議論された。

話題提供で利用された資料はホームページ上で閲覧できます！！

### (1) 衛星データの大气補正と放射伝達 久世宏明（千葉大学）

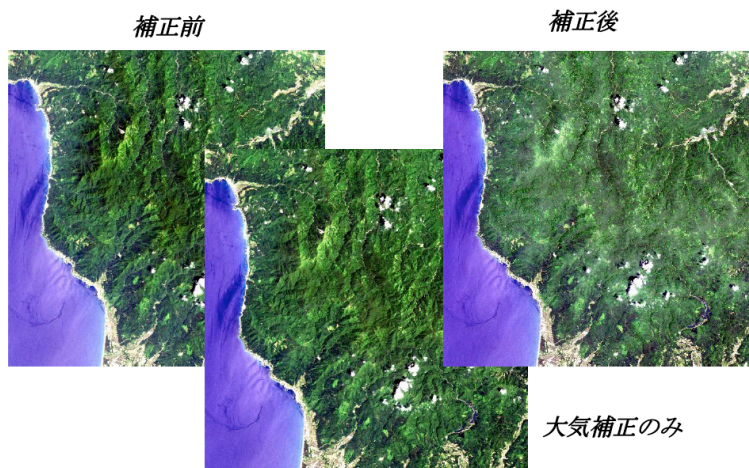
大气補正の基本となる放射伝達方程式の理論、および同方程式の基づく衛星による放射輝度成分の観測モデルとその解法について解説があった。また、放射伝達シミュレーション計算と実測実験の実例について講演があった。

携帯型分光計による直達光と天空光の観測



### (2) 衛星画像における大气の影響とその対策 飯倉善和（弘前大学）

衛星画像の大气・地形効果の補正について、簡便で実用的なDNの補正方法の原理と実例、放射伝達モデル(6S)を用いた放射輝度補正方法の原理と実例、および起伏が有る地形でのヘイズ影響の補正について講演があった。



### 今後の研究会について

本会を通じて衛星データの物理量（放射輝度・反射率）への変換について、その重要性と最近の補正技術の進展を共有した。今後の研究会活動として、衛星データの物理量変換方法を評価・標準化の主要課題として検討を進めていくことにした。特に、放射輝度補正を容易に実施するために、地上に分光放射センサを設置し衛星データの補正をタイムリーに行なう地上リファレンス網に関して検討を進めることとした。